



Title	a+a 美学研究 第15号 奥付
Author(s)	
Citation	a+a 美学研究. 2024, 15
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/103396">https://hdl.handle.net/11094/103396</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 執筆者紹介

## 高安啓介 | たかやす・けいすけ

大阪大学大学院人文学研究科教授。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。愛媛大学法文学部准教授を経て現職。専門はデザイン思想史。著書に『近代デザインの美学』（みすず書房、2015年）。

## 横山千晶 | よこやま・ちあき

慶應義塾大学法学部教授。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は、ヴィクトリア朝文学・文化研究。著書に『ジョン・ラスキンの労働者教育—「見る力」の美学』（慶應義塾大学出版会）翻訳にジョン・P・ランドウ著『ラスキン一眼差しの哲学者』（日本経済評論社）。

## 池山加奈子 | いけやま・かなこ

大阪大学大学院人文学研究科博士前期課程。クリエイティブ・ディレクター。これまで、行政や企業とともに地域に根ざした各種プロジェクトに取り組みながら、風土とデザインの関わりを探索する。専門はデザイン、スウェーデンのスロイド（手仕事）。

## 岡田弥生 | おかだ・やよい

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程。専門はインドの染織文化。マハトマ・ガンディーの思想がインドのテキスタイル文化におよぼした影響について研究している。

## 太田未来 | おおた・みき

2014年よりstudio-Lに加わり、全国のコミュニティデザインのプロジェクトに関わる。図書館などの公共施設の設計や活用に関するプロジェクトや公園づくりやパークマネジメント、寺院と地域をつなぐプロジェクトなどを担当している。

## 工藤真生 | くどう・まお

九州大学大学院芸術工学研究院助教。筑波大学大学院博士後期課程修了。博士（デザイン学）。筑波大学附属大塚特別支援学校教諭を経て現職。専門はサイン計画及びピクトグラムのユニバーサルデザイン。

## 東志保 | あづま・しほ

大阪大学大学院人文学研究科准教授。パリ第三大学映画視聴覚研究科博士後期課程修了。博士（映画視聴覚研究）。専門は、映画研究・比較文化論。共編著に『クリス・マルケル—遊動と闘争のシネアスト』（森話社、2014年）、共著に『ジャン・ルーシュ—映像人類学の越境者』（森話社、2019年）。

## 岩崎陽子 | いわさき・ようこ

嵯峨美術短期大学准教授。大阪大学文学研究科博士課程修了。博士（文学）。専門はフランス美学・哲学。味と匂い研究会、Perfume Art Project代表。香りのアートのプロジェクトや展覧会を国内外で多数キュレーション。

## 水内智英 | みずうち・ともひで

京都工芸繊維大学未来デザイン・工学機構准教授。武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業、ロンドン大学大学院Design Futures、京都工芸繊維大学工芸科学研究科博士課程修了。博士（学術）。専門は、ソーシャルイノベーションのためのデザイン、メタデザイン、システムデザイン。NPO法人issue+designクリエイティブディレクター・理事。基礎デザイン学会理事。

## a+a 美学研究

第15号

発行日 2024年4月30日

各論文につき2名以上の編集委員が、査読審査をとおして掲載の可否を決定するとともに、必要に応じて改稿の依頼をおこなった。

編集委員 高安啓介

田中 均

東 志保

横道仁志

岩崎陽子

横山千晶

水内智英

高橋美恵子

編集協力 池山加奈子

奥倉美卯

岡田弥生

編集・発行 大阪大学大学院人文学研究科美学研究室

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

装丁・組版 松本久木（松本工房）

印刷・製本 株式会社 ケースアイ

©2024大阪大学美学研究室

Printed in Japan

ISSN 1346-1095

『a+a美学研究』は、美学の知をより多くの方々と共有できることを目指しています。新しい研究を紹介する学術雑誌としての機能を保ちながら、美学への理解を深めたい学生にとっても、芸術に興味のある読者にとっても、知の道標となるような特集をこれから組んでいきます。この雑誌の編集にあたっては、コミュニケーションの様態への関心から、知の内容だけでなく知の形式についても反省をめぐらし、見出された知見がいかに社会のうちに浸透していくのか、重要と思われる事柄がいかに社会のうちに共有されるのか、美学の思考をそこまで駆り立ててみたいと思います。